



日本植物分類学会

ニュースレター

No. 16

Feb. 2005

目次

新会長あいさつ.....	2
評議員あいさつ.....	3
編集委員長あいさつ.....	4
役員等一覧（任期：2005年1月1日～2006年12月31日）.....	5
諸報告.....	6
第4回日本植物分類学会賞受賞者の決定.....	6
2004年度第2回メール評議員会議事抄録.....	6
2004年度第3回メール評議員会議事抄録.....	7
日本分類学会連合第4回総会のご報告.....	8
日本植物分類学会講演会の報告.....	8
「楽しいスゲの分類—ハリスゲの仲間」を聞いての感想.....	8
お知らせ.....	9
日本植物分類学会第4回高知大会プログラム変更のお知らせ.....	9
日本植物分類学会第4回高知大会公開シンポジウムのお知らせ.....	9
2005年度野外研修会のお知らせ.....	10
評議員会開催のお知らせ.....	10
総会における審議事項.....	10
2004年度事業報告（案）.....	11
2004年度決算報告（案）.....	12
2005年度事業計画（案）.....	13
2005年度予算（案）.....	14
会費納入と自動振替利用のお願い.....	15
メールアドレスご確認のお願い.....	16
絵はがき「日本の絶滅危惧植物」販売中！.....	16
いきもの便り.....	17
植物と動物便り・1・うまい話にゃご用心.....	17
チイ便り・3　～レプラゴケとダニ～.....	18
会員消息.....	20

新会長あいさつ

邑田仁

加藤雅啓前会長を引き継ぎ、今期の会長を務めることになりました。また、幹事も全員新メンバーに交代しました。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

加藤前会長は旧本植物分類学会時代から3期6年にわたり会長を務められ本学会の運営や問題点に精通してさまざまな事柄に的確に対応されましたが、新米の私はこれから勉強しつつ、まず前会長の敷かれた新学会創立以来のルールに乗ってスタートさせていただきたいと思います。

学会事業の第1の柱であるAPG発行については、岡田委員長にもう1期留任をお願いすることになりました。岡田委員長は、2006年には年4冊を発行するという目標に向かって着実に前進しておられますので、会員の皆様にはよい論文をひとつでも多く投稿して、APGを盛り立て、植物学会のアクティビティを高めていただくようお願いいたします。大きな論文としてまとまる研究は氷山の一角であり、研究対象となる植物についての数多くの情報や発見が積み重なってはじめてなし遂げられることです。和文誌「分類」やニュースレターにも役立ちそうな記事をぜひお送りください。

事業の第2の柱である大会は、この3月に高知県牧野植物園で開催されます。大会は研究発表の場として大きな意味を持つことはもちろんですが、野外研修会や講演会とともに、日頃は連絡のない会員が交流や情報交換をする絶好の場所です。特に学生会員をはじめ、多くの方々に参加していただけるよう希望します。また、総会にも参加して、学会の運営についてご発言ください。

このニュースレターに新役員や委員名が掲載されているとおり、それぞれの委員

会が積極的に活動しています。すでに解散しましたが、国際植物命名規約邦訳委員会による命名規約翻訳・出版は、本学会のみならず、広く植物学に興味のある方々の役に立つよい事業であったと考えられます。この翻訳は著作権の関係で残念ながらホームページ公開ができませんでしたが、このような公共性の高い事業を今後も推進していきたいと考えています。

こうした学会の事業を進め、さらに発展させるためには、学会に体力をつけることが大切と考えます。本学会は決して大きな学会とはいえませんが、会員の交流や団結にはかえって好都合な点もあります。自分の興味(研究)や立場について、詳しく説明しなくても理解し協力してくれる人がいることはとてもありがたいことです。しかしその反面、理解してもらうことがあたりまえになり、感謝の気持ちが薄れていないでしょうか。自分の活動や研究のために何かをしてもらったら、責任を持ってよい成果を出すことが必要です。また、隣人が近すぎて、客観的に意見を述べ、客観的に意見を聞くことが不得意になっていないでしょうか。申請したり評価を受けたりする機会は増えるばかりです。そうした対応を含め、遠い分野の人、研究とは関係のない一般社会の人々にも、自分のやりたいこと、やっていることを正確に伝えるトレーニングがもっと必要のように感じます。

最後になりましたが、経済的基盤をしっかりとしておくことも、体力を保つうえで必要不可欠なことです。身近な人に呼びかけて新入会員を増やしましょう。もし会費未納の方がいましたら、速やかに納入をお願いいたします。

評議員あいさつ

高橋英樹

北海道という地方に暮らしている事もあり学会運営にはほとんど貢献してきませんでした。多様性を尊重する学会らしく、次期の評議員として選ばれていますのでごあいさつ申し上げます。新評議員会としてはまだ実際に顔を合わせた会議をおこなっていませんので、評議員会としてのあいさつではなく、一評議員としてのあいさつとなることをご容赦ください。

まず最初に、私自身の勉強も兼ねて、新生、植物分類学会が設立されてからの経過を振り返ってみました。

日本植物分類学会の設立総会は2001年5月12日に京大会館で開かれました。この時の報告はニュースレター1号(2001年5月号)にあります。当時の植物分類地理学会と(旧)日本植物分類学会が統合した形でした。設立記念のシンポジウムには私も参加したはずなのですが、あまりはっきりした印象がありません。1学会員として参加しているのであまり責任感もなかったのでしょう。それから4年の経過を振り返ると、それまで分散されていた力が束ねられ、日本の植物分類学発展のためにも大きな出来事だったのだと、今になると思えてきます。

2001年の設立においては6月30日までの暫定期間として、福岡誠行会長と17名の評議員が承認されました。同じ2001年の6月20日には最初の選挙が行われ、2001-2002年度の役員として、加藤雅啓会長と評議員12名(うち選挙での選出が8名、合意による追加選出が4名)が選出されました。2002年10月5日の選挙で2003-2004年度の役員として、加藤雅啓会長が再選されやはり12名の評議員が選出されました。これに引き続いて、2004年10月9日の選挙で2005-2006年度の役員として選出されたのが、今回の邑田仁会長と12

名の評議員という事になります。2002年からは毎年、2号のAPGと2号の『分類』、4号のニュースレターが発行されています。

学会誌の編集・発行を始め、選挙やニュースレター、会計管理など、営々と学会事務が遂行されてきたことになります。今回、新学会の歩みを振り返ってみて、事務局・庶務幹事、会計幹事、編集幹事の方達、つまりは我々の研究仲間が時間を削って献身してくれている事に対して新たに思い至りました。会員数が少なく予算も限られているという事情があるのですが、逆に言えばこのおかげで、事務を丸投げせずすみ、学会センター事件の大きな被害にも会わなかったのでしょう。

私が植物分類学会に初めて出席して発表したのは、おそらく修士2年の1970年代後半、イチヤクソウの4集粒花粉の形成過程についてだったと思います。二日酔いで、質問に対してまだ確認していないような事をあたかも観察しているかの如く答えたのは、今思えば恥ずかしくも懐かしい思い出です。それから四半世紀経ってみて、学会とはどのような意味があるのかな、とふと考えたりもします。北大の昆虫学者として有名な坂上昭一先生は、学会にほとんど出席しなかったそうです。動物学会賞を受賞したときの大会にも出席しなかったそうです。学会講演の準備をする間に論文が一遍書ける、と述べていたそうです。私も年によっては坂上先生を気取り、大会に参加しなかった事も結構ありましたが、結局は坂上先生の域まではとても達することはできません。おそらく卓越した学者にとって、学会はさほど大きな意味は持たないのでしょう。しかしその他大勢の、「普通の研究者」や特に若手研究者にとっては、互いに刺激を受けあえる大切な場であると思います。

「学会（大会）に行く」と言われるように、学会と大会はほぼ同じ意味で使われています。これだけインターネットが発達した世の中であるからこそ、逆に直接顔を合わせての議論の場として、大会の意義はなくならないでしょう。大会を盛り上げる工夫がまだまだあるかな、というのが率直な気持ちです。また大会とともに重要なもう1つの柱はジャーナルでしょう。これについてもさらに充実化の方向が出されているようです。それを支えるのは、学会員の活発な論文作成の活動です。我々の院生時代に手動式タイプライターで何

度も最初から原稿を打ち直していたことを考えれば、現在のワープロ時代、あの頃の何倍もの論文生産量がなくてはなりません。日々の雑務の山を越えて、よい論文を書きたいと願う今日この頃です。それとともにジャーナルの編集・印刷関連の事務もほとんど学会員のボランティアで行われているのですから、協力をよびかけられた方はどうぞ嫌がらずに協力いただきたいと思います。一人一人が運営に参加しているという実感が持てる、小粒でもピリッと辛い学会であり続けてほしいと思います。

編集委員長あいさつ

編集委員長 岡田博

邑田会長より編集委員長を委嘱されました岡田博です。すでに加藤前会長の下で2期4年勤めさせていただき、その間に徐々にではありますが学会誌APGも充実してきていることは、会員皆様の暖かい励まし、ご助力の賜物と感謝しています。特に昨年はそれまでの年2号であったものを3号に増やすという、一歩間違えれば機関紙がつぶれるかもしれない冒険をあえて行いましたが、会員皆様から積極的に多くの原稿を寄せていただき、何とか乗り切れそうな状況になっていることには心から安堵しています。また、さらに一層がんばっていきましょうという励みになっています。今後とも、益々のご助力、ご協力、そして更なる積極的なご投稿をお願いする次第です。編集委員会としましては会員PGの定期刊行を確実にしていく（56巻1号は定期の4月に出版予定です）、機会あるごとに外国の研究者へ投稿を呼びかける、などです。また、雑誌の体裁にももう一工夫を凝らし（予算がないので素人の浅知恵でやっていますが、あまり評判がよくないようです。すみません）、投稿意欲のわくようなものにしたいと思います。そして可能なものならばできるだけ

早い機会に年4号の発行を目指すことも大切な課題と考えています。ISIへの登録の取り組みも重要と思います（インパクトファクターというのはある意味で分類学にはそぐわないものですが、場合によってはそれによってふるいにかけてられることもあるのは事実のようで、簡単に拒否もできない厄介なものだと思いますが：ちなみに試算では2003年のAPGのインパクトファクターは0.2以上あるのだそうです。論文をまとめられる場合には可能な限りAPGの掲載論文を引用していただくとさらにインパクトファクターが上がりますので、よろしくお願いします。）ずいぶんと問題が山積していますが、1つ1つ解決していく所存ですので、今後とも暖かいご助力、ご協力、またご投稿をよろしくお願いいたします。



役員等一覧（任期：2005年1月1日～2006年12月31日）

庶務幹事 黒沢高秀

今期の役員等および委員会が以下のように決まりましたので報告致します。委員の検討依頼が遅れたために、一部の委員会の委員が未決定です。これらの委員に関しては総会で報告するとともに次号のニュースレターに掲載致します。

会長 邑田 仁
 庶務幹事 黒沢 高秀
 会計幹事 田中 法生
 編集委員長 岡田 博
 図書幹事 鈴木 武

植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合担当幹事 菅原 敬

ホームページ担当幹事 加藤 英寿
 ニュースレター担当幹事 三島 美佐子
 和文誌担当 秋山 忍
 自然史学会連合担当委員 西田 治文
 講演会担当委員 田村 実

評議員：秋山 弘之 今市 涼子 植田 邦彦 梶田 忠
 小菅 桂子 高橋 英樹 高宮 正之 出口 博則
 西田 佐知子 藤井 伸二 村上 哲明 綿野 泰行

監事：栗林 実 高橋 弘（次の総会まで）

編集委員：秋山 弘之 伊藤 元巳 角野 康郎 川窪 伸光 瀬戸口浩彰
 高橋 英樹 高橋 正道 高宮 正之 永益 英敏 西田 治文
 根本 智行 野崎 久義 原田 浩 村上 哲明 綿野 泰行

Editorial Board:

BOUFFORD, David E. HAKKI, Madjit I. HONG, Deyuan
 PAK, Jae-Hong PENG, Ching-I. TAN, Benito C.

ニュースレター連絡員

大村 嘉人 坪田 博美 内貴 章世 西田 佐知子 Park, ChanHo

委員会

絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会 委員長 矢原 徹一

絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会 委員長 粕谷 博之

植物データベース専門委員会 委員長 伊藤 元巳

学会賞選考委員会 委員長 加藤雅啓

高橋 英樹 出口 博則 永益 英敏 西田 佐知子 村上 哲明

学会賞等検討委員会（答申を提出後に解散予定）委員長 角野康郎

今市 涼子 岡田 博 加藤 雅啓 北川 尚史 永益 英敏
 邑田 仁 遊川 知久

諸報告

第4回日本植物分類学会賞受賞者の決定

2004年度学会賞選考委員会委員長 角野康郎

第4回日本植物分類学会賞は、推薦された10名の候補者（1名辞退）について学会賞選考委員会において審議した結果、下記のように決定致しました。

高宮正之 氏（熊本大学自然科学研究科助教授）

南谷忠志 氏（前宮崎県総合博物館副館長）

高宮氏は、染色体の高度な観察技術を研究の柱とし、さらに比較形態学的観察や分子生物学的研究を併用して、今まで混沌としていたシダ植物の多くの分類群の実体を解明することに成功しました。特に無配生殖や倍数体がからむ分類群の研究には特記すべきものがあります。また日本産シダ植物の染色体数を網羅したデータベースを構築して公開されたことも、分類学に対する大きな貢献として評価されます。これらの実績を基礎にした研究は、今なお途上にあり、今後の発展が期待されます。

南谷氏は、宮崎県を中心とした精力的な調査により数多くの新分類群、新産地を発見するなど、九州地方の地域植物相の解明に重要な貢献をされました。また宮崎県を訪れる各分野の研究者への惜しみない協力も日本の植物分類学の進展に大きな役割を果たしたと言えます。最近では、絶滅危惧種への保全にも意欲的に取り組み、その広範な活躍が評価されました。

2004年度第2回メール評議員会議事抄録

前庶務幹事 遊川知久

2004年11月22日～30日に2004年度第2回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。

開催日時 2004年11月22日～30日

開催方法 電子メール等の媒体を用いた会議

出欠確認

- ・評議員の全員が出席
- ・議長として加藤雅啓会長が選出された
- ・議事録署名人として邑田仁氏と伊藤元己氏が選出された。

審議事項

制度改正後の日本学術会議の会員候補者に関する情報提供の依頼があり、この件について審議された。その結果、以下の各氏を会員候補者とし情報提供を行うことが提案された。

(1) 日本植物分類学会宛に依頼された科学者情報の提供

伊藤元巳 加藤雅啓
小菅桂子 西田治文
長谷部光泰 村上哲明

(2) 日本分類学会連合宛に依頼された科学者情報の提供

加藤雅啓 松浦啓一

審議結果

承認 13, 非承認 0, 白票 0 で承認された。

なお、議長を加藤雅啓氏、議事録署名人を邑田仁氏と伊藤元己氏とすることに反対は無かった。

なお日本学術会議の新制度の詳細については、<http://www.scj.go.jp/index.html>を参照されたい。

2004 年度第 3 回メール評議員会議事抄録

前庶務幹事 遊川知久

2004 年 12 月 18 日～27 日に 2004 年度第 3 回メール評議員会が開催されましたので、議事抄録を報告します。この会議は会計の決算案と予算案、事業の報告案と計画案を評議員の方々に審議していただき、総会までの会務・会計執行の指針を得るためのものです。なお、本ニューズレターでお知らせする、3 月 11 日の評議員会と 12 日の総会に提案される議案には、その後の推移を考慮した最低限の修正が加えられている箇所がありますが、どうぞご了承ください。

開催日時 2004 年 12 月 18 日～27 日

開催方法 電子メール等の媒体を用いた会議

出欠確認

- ・伊藤氏、今市氏、永益氏は欠席。他の評議員は全員出席
- ・議長として加藤雅啓氏が選出された
- ・議事録署名人として西田治文氏と田村実氏が選出された

審議事項

第 1 号議案 2004 年度決算案

第 2 号議案 2005 年度予算案

第 3 号議案 2004 年度事業報告案・2005 年度事業計画案

審議結果

第 1～3 号議案は、承認数 10, 非承認 0, 白票 3 で承認された。なお、議長を加藤雅啓氏、議事録署名人を西田治文氏と田村実氏とすることに反対は無かった。

日本分類学会連合第4回総会のご報告

植物分類学関連学会連絡会・日本分類学会連合担当幹事 菅原敬

日本分類学会連合は、「生物の分類学全般にかかわる研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の普及と発展に寄与することを目的」として2002年に設立されたもので、現在27の学会が参加しています。今年の1月8日(土)に国立科学博物館で第4回の総会が開かれましたが、植物分類学会からは邑田仁会長と私が出席してきました。総会では前年度の活動報告・会計報告、今年度の事業計画・予算計画・会則の一部修正等についての審議が行われ、また午後からは連合の活動の一つでもある公開シンポジウムが開催されました。今回は「種の違いをどのようにみわけるか—生物を種の単位でみてみよう—」というテーマのもとで、1) 爬虫類の種—ヘビとトカゲの見分け方(足田努)、2) 昆虫の種を見分ける方法—いくつかのアリ共生型昆虫とアリを例に(丸山宗利)、3) 分子系統からみた褐藻コンブ類の多様性と種(川井浩史)、4) 自然界に生きるカビの種を探る(出川洋介)、5) 巨樹バオバブを分類する(湯浅浩史)、6) 生きている化石、ウミユリの分類—どの形質が重要か?(大路樹生)、六題の講演がありました。いかがでしたでしょうか? 連合担当幹事としての務めは今年からで、まだまだわからないことが多いですが、シンポジウムなどで皆さまに御協力をお願いすることも多いと思いますので、よろしくお願い致します。

日本植物分類学会講演会の報告

頌栄短期大学 福岡誠行

昨年、押し迫った12月23日に兵庫県三田市にある兵庫県立人と自然の博物館にて開催しました。午前中清水孝浩氏、福田知子氏(日本と台湾のミヤマシキミ属の分類)、午後に秋山弘文氏(コケ植物の楽しみ)、武田義明氏(マツ林、30年間の変遷)、田端英雄氏(国際的に通用する日本植生帯区分とは)から講演頂きました。

このように書いてしまうと簡単なようですが、会場一つ決めるにも大変です。厄介なもめごとを持ち込まれたような顔をされることもあります。今回の5人の演者は気持ちよく引き受けていただきました。感謝いたします。

「楽しいスゲの分類—ハリスゲの仲間」を聞いての感想

織田二郎 大阪府立藤井寺高等学校

演者の清水孝浩氏は、スゲの世界では知る人ぞ知る実力者である。かれの実力を支えているものは“日本全国をくまなく歩いていること”である。日本の植物分類学の歴史に名を残してしかるべき人だと常々思っていたので、楽しみに聞かせていただいた。

ハリスゲの仲間 *Carex* Sect. *Capitellatae* Meish. は単純な体をしているので区別が難しい。いままでいろいろ問題点を感じた人はあるのだが、正面から発言した人はほとんどない。日本産の6種1変種は全て外国人によって1800年代に書かれたものである。清水氏はこの度思い切って新種をAPGに投稿中だそうで、本日はその話が中心であった。分布は本州日本海側のある程度標高のあるところ(高山帯ではなく、ブナ帯上部から亜高山帯)で、私たちが数年前発表したウスイロオクノカンスゲにあまりにもよく

似た分布パターンのものであった。標高の高いところは低いところより植物種が少ないように感じるので、新分類群の発見は難しいと思うのだが、まだそれが残っているということは私たち植物愛好家にとって新たな希望が湧いてくるいい話であった。

お知らせ

日本植物分類学会第4回高知大会プログラム変更のお知らせ

日本植物分類学会第4回大会準備委員会

大会プログラムが以下のように変更されました。参加の皆様はご注意ください。

変更後の日程（太字が変更点）

3月11日（金） 変更なし

3月12日（土） 【09:30 - 12:30】 一般講演

【13:30 - 14:30】 総会

【14:30 - 17:00】 ポスターセッション

【18:00 - 20:00】 懇親会

3月13日（日） 【09:00 - 12:00】 一般講演

【13:00 - 13:50】 学会賞授与式・記念講演

【13:50 - 15:20】 一般講演

日本植物分類学会第4回高知大会公開シンポジウムのお知らせ

日本植物分類学会第4回大会準備委員会

公開シンポジウムを以下のように開催いたします。皆様ふるってご参加下さい。シンポジウムおよびレストラン・売店以外で園内をご利用の場合は入園料が必要です。学会参加者は入園料は無料です。

【日時】 3月11日（金） 14時～17時

【会場】 高知県立牧野植物園 映像ホール

【テーマ】 植物分類学の国際協力プロジェクト -その現状と課題-

【プログラム】

14:00-14:10 公開シンポジウムにあたって 大会会長 小山 鐵夫

14:10-14:40 岩槻 邦男（放送大学・兵庫県立人と自然の博物館）

「植物インベントリーに今必要なこと」

14:40-15:10 高橋 英樹（北海道大学総合博物館）

「千島列島・樺太の植物インベントリー」

15:10-15:40 永益 英敏（京都大学総合博物館）

「湿润熱帯アジアの植物インベントリー」

15:40-16:10 中田 政司（富山県中央植物園）

「中国雲南省における昆明植物園との共同研究」

16:10-16:40 小山 鐵夫（高知県立牧野植物園）

「植物インベントリーと国際関係論」

16:40-17:00 総合討論

2005 年度野外研修会のお知らせ

庶務幹事 黒沢高秀

今年度の野外研修会は、水野瑞夫先生に世話人をお願いし、岐阜県と滋賀県境に位置し、「葉草のふるさと」として、あるいは石灰岩地生の植物で知られ、飯沼惣齋ともゆかりのある伊吹山で行う予定です。日程を含む詳細はニュースレター5月号でお知らせ致します。

評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 黒沢高秀

日本植物分類学会第4回大会（於：高知県立牧野植物園）の開催に合わせ、下記の通り評議員会を開催します。評議員、幹事会、関係各位の出席をお願いいたします。

日時： 3月11日（金） シンポジウム終了後（午後5時30分を予定）

会場： 高知県立牧野植物園内（詳細は関係各位におって連絡します）

評議員会においては、総会における審議事項と同様の内容が審議されます。審議事項についてご意見、ご希望がございましたら、評議員、会長、幹事、委員長のいずれかにお伝え下さい。

総会における審議事項

庶務幹事 黒沢高秀

3月12日（土）に開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位の参加をお願いいたします。

- (1) 2004 年度事業報告（案）（11 ページ参照）
- (2) 2004 年度決算報告（案）（12 ページ参照）
- (3) 2005 年度事業計画（案）（13 ページ参照）
- (4) 2005 年度予算（案）（14 ページ参照）
- (5) その他

日韓シンポジウム開催について

学会事務センター破産に関わる会計処理について

会費滞納について

2004 年度事業報告（案）

(1) 集会等の開催

- ・2004 年度講演会を兵庫県立人と自然の博物館で開催した（12 月 23 日）（8 ページ参照）。
- ・年次学術集会（日本植物分類学会第 3 回大会）を広島大学で開催した（3 月 13 - 15 日）。
- ・2004 年度野外研修会を愛知県と岐阜県で開催した（9 月 18 - 20 日）（ニュースレター No. 15 参照）。
- ・アジアの植物多様性と分類に関する国際シンポジウム（IAPT シンポジウム 2004）を国立歴史民俗博物館で開催した（7 月 29 日 - 8 月 1 日）。

(2) 出版物の刊行

- ・学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 55 巻 1-3 号（計 3 冊）を発行した。
和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第 4 巻 1-2 号（計 2 冊）を発行した。
- ・ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』12-15 号（計 4 冊）を発行した。
- ・『植物分類学関連学会連絡会合同名簿』の作成に取り組んだ。

(3) 委員会活動

- ・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会
- ・絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会
- ・植物データベース専門委員会
- ・学会賞等検討委員会（5 ページ参照）

(4) 日本植物分類学会賞

- ・第 3 回日本植物分類学会賞の授与をおこなった。
- ・第 4 回日本植物分類学会賞の選考をおこなった（6 ページ参照）

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・学会連合等への参加・連携をおこなった：日本学術会議、植物分類学関連学会連絡会、自然史学会連合、日本分類学会連合。
- ・IAPT シンポジウム 2004 実行委員会の活動。

(6) その他

- ・バックナンバーを販売した（12 ページ参照）。
- ・植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ等で提供した。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行った。
- ・植物分類学マニュアルの編集（継続）。
- ・日本学術会議会員候補者に関する情報提供を行った。

2004 年度決算報告 (案) (2005. 1. 4 現在)

通常会計		単価	員数	2004 年度予算	2004 年度決算	予算との差異
収入 会費						
一般会員		5,000	780	3,900,000	3,714,000	186,000
学生会員		3,000	77	231,000	135,000	96,000
団体会員		8,000	38	304,000	208,000	96,000
別刷り (APG)		150,000	3	450,000	278,920	171,080
別刷り (和文誌)		75,000	2	150,000	122,630	27,370
バックナンバー販売				100,000	283,775	△ 183,775
利息				20	113,600	△ 113,580 注 1
雑収入				50,000	132,828	△ 82,828 注 2
		小計		5,185,020	4,988,753	196,267
		繰越金		4,861,700	4,861,700	0
		合計		10,046,720	9,850,453	196,267
支出						
印刷費	APG (55(1) -55(3)) 印刷費	800,000	3	2,400,000	1,838,590	561,410
	APG 別刷り・カラー印刷費	100,000	3	300,000	218,094	81,906
	和文誌印刷費 (4(1), 3(2))	500,000	2	1,000,000	1,088,850	△ 88,850
	和文誌別刷り代	50,000	2	100,000	201,247	△ 101,247
	NL 印刷費	80,000	4	320,000	297,644	22,356
	封筒等印刷費			200,000	102,249	97,751
送料・	APG 送料	110	3,000	330,000	392,545	△ 62,545
通信費	和文誌送料	145	2,000	290,000	164,060	125,940 注 3
	NL 送料	110	2,000	220,000	205,975	14,025
	その他小包など			200,000	168,713	31,287
事務費	消耗品費			50,000	7,290	42,710
	アルバイト賃金 (含発送代行)			180,000	171,702	8,298
	自然史学会連合負担金			20,000	20,000	0
	総会費			0	0	0
	学会賞賛金・表彰	30,000	2	60,000	60,000	0
	大会補助費			100,000	100,000	0
	会議費			130,000	0	130,000
	英文校閲費			360,000	212,620	147,380 注 4
	手数料・その他			30,000	10,770	19,230
	自動振替集金代行基本料			3,150	6,300	△ 3,150
	自動振替口座確認手数料	111	100	11,100	2,520	8,580 注 5
予備費				200,000	45,465	154,535 注 6
講演会補助費				30,000	5,200	24,800
分類学会連合分担金				10,000	20,000	△ 10,000 注 7
植物分類学関連学会連絡会合同名簿				160,000	0	160,000
	小計			6,704,250	5,339,834	1,364,416
	次年度への繰越			3,342,470	4,510,619	△ 1,168,149
	合計			10,046,720	9,850,453	196,267

注 1 : 定額貯金満期に伴う税引き後の利子 113600 円を含む。 注 2 : 広島大会の余剰金約 7.7 万、著作権料 2.4 万、絵はがき販売約 1.4 万、タイトル収入約 0.5 万など。 注 3 : 4(1) は NL と、4(2) は APG、NL と同時発送。和文誌送料としては前者のみを計上し、後者は APG 送料として計上。 注 4 : 手数料 2500 円を含む。 注 5 : 消費税を含む。 注 6 : 学会事務センター破産に関連した損金。注 7 : 誤って二重に支払ってしまったため。

特別会計 2004 年度決算案 (1/4 現在)

	2004 年度予算	2004 年度決算	予算との差異
収入			
前年度繰越金	1,690,919	1,690,919	0
命名規約邦訳販売収入	255,000	363,008	108,008
IAPT シンポジウム返還金	0	480,000	480,000
利息	0	0	0
合計	1,945,919	2,533,927	588,008
支出			
IAPT シンポジウム経費	500,000	500,000	0
命名規約邦訳販売経費	0	20,900	△ 20,900
次年度への繰越金	1,445,919	2,013,027	567,108
合計	1,945,919	2,533,927	546,208

2005 年度事業計画（案）

(1) 集会等の開催

- ・ 2005 年度講演会を開催する。
- ・ 年次学術集会（日本植物分類学会第 5 回大会）を開催する。
- ・ 2005 年度野外研修会を開催する。

(2) 出版物の刊行

- ・ 学会誌の発行
英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第 56 巻 1-3 号（計 3 冊）を発行する。
和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第 5 巻 1-2 号（計 2 冊）を発行する。
- ・ ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』16-19 号（計 4 冊）を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動する（5 ページ参照）。

- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会
- ・ 絶滅危惧植物・移入植物専門第二委員会
- ・ 植物データベース専門委員会
- ・ 学会賞等検討委員会

(4) 日本植物分類学会賞

- ・ 第 4 回日本植物分類学会賞の授与をおこなう。
- ・ 第 5 回日本植物分類学会賞の選考をおこなう。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・ 学会連合等への参加・連携をおこなう：日本学術会議、植物分類学関連学会連絡会、自然史学会連合、日本分類学会連合など。
- ・ 日韓シンポジウムを共催する。

(6) その他

- ・ バックナンバーの販売を行う。
- ・ 植物分類学関連情報（学術集会、研究動向、出版物、公募）を収集し、ニュースレター、ホームページ等で提供する。
- ・ 学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換をする。
- ・ 植物分類学マニュアルの編集を継続する。

<参考資料>

会員数（人）（2004. 12. 31 現在）

	男性	女性	計
国内一般会員	708	90	798
学生会員	63	30	93
海外個人会員	10	1	11
名誉会員	11	2	13
計	792	123	915

2005 年度予算 (案)

通常会計	単価	員数	2005 年度予算	前年度予算との差異
収入 会費				
一般会員	5,000	800	4,000,000	100,000
学生会員	3,000	90	270,000	39,000
団体会員	8,000	30	240,000	△ 64,000
別刷り (APG)	120,000	3	360,000	△ 90,000
別刷り (和文誌)	75,000	2	150,000	0
バックナンバー販売			100,000	0
利息			20	0
雑収入			50,000	0
	小計		5,170,020	△ 15,000
	繰越金		4,510,619	△ 351,081
	合計		9,680,639	△ 366,081
支出 印刷費				
APG (56(1) -56(3)) 印刷費	700,000	3	2,100,000	300,000
APG 別刷り・カラー印刷費	80,000	3	240,000	60,000
和文誌印刷費 (5(1), 4(2))	500,000	2	1,000,000	0
和文誌別刷り代	50,000	2	100,000	0
NL 印刷費	80,000	4	320,000	0
封筒等印刷費			300,000	△ 100,000
送料・通信費				
APG 送料	110	3,000	330,000	0
和文誌送料	145	注 1 2,000	290,000	0
NL 送料	110	2,000	220,000	0
その他小包など			200,000	0
事務費 消耗品費			50,000	0
アルバイト賃金 (含発送代行)			180,000	0
自然史学会連合負担金			20,000	0
総会費			0	0
学会賞賛金・表彰	30,000	2	60,000	0
大会補助費			100,000	0
会議費			130,000	0
英文校閲費			120,000	240,000
手数料・その他			20,000	10,000
自動振替集金代行基本料			3,150	0
自動振替口座確認手数料	111	注 2 100	11,100	0
予備費			200,000	0
講演会補助費			30,000	0
分類学会連合分担金		注 3	0	△ 10,000
植物分類学関連学会連絡会合同名簿			160,000	0
	小計		6,184,250	500,000
	次年度への繰越		3,496,389	153,919
	合計		9,680,639	△ 366,081

注 1: 和文誌と NL2 回を同時発送する場合の送料見積り。 注 2: 消費税を含む 注 3: 昨年度二重に支払ったため。

特別会計 2005 年度予算案

	2005 年度予算	前年度予算との差異
収入 前年度繰越金	2,013,027	322,108
利息	0	0
合計	2,013,027	322,108
支出 次年度への繰越金	2,013,027	567,108
合計	2,013,027	567,108

会費納入と自動振替利用のお願い

会計幹事 田中法生

本学会の会費は前納制で、一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、団体会員 8,000 円です。納入状況はニュースレター送付の際の宛名書きの右下に「納済会費：数字」という形で示してあります（自動振替制度をご利用の方は、数字の代わりに「自動振替」と記入されています）。この数字が 2005 未満の方は、以下の郵便振替口座にお早めに納入いただきますよう、よろしくお願い致します。

- 口座番号：00120-9-41247
- 名 義：日本植物分類学会

現在 300 名以上の会員が 1 年分、さらにそのうちの 200 名以上の会員が 2 年分の会費をお納めいただいております。この分だけで 200 万円以上の減収になっております。上記納入年度をご確認の上、速やかな未納分の解消にご協力下さいますよう、お願いいたします。

ご承知のように昨年度より会費納入に自動振替をご利用頂けるようになっております。会計事務削減のため、なるべく本制度をご利用頂きますよう、よろしくお願い致します。ご希望の方は、自動振替依頼書にご記入・ご捺印の上、随時会計幹事にお送り下さい（ただし 2005 年度の会費引き落とし手続きは終了しておりますので、ご利用は 2006 年度からになります）。依頼書をご希望の方は会計幹事までお問い合わせ下さい。

その他、会費納入に関するご質問、納入状況のご照会など、随時承っておりますので、お気軽にお知らせ下さい。会計幹事の連絡先は、ニュースレター巻末をご参照下さい。

編集後記

今期からニュースレター編集を担当いたします三島です。これまでニュースレター→読み飛ばし、滞納→しまくり等々の悪い会員でありましたが、この初編集をとおして裏方の御苦労というものを身を持って知り、反省とともに心を入れ変えた次第です。・・・・・・・・。

さて、気を取り直して。今回はいくつかの記事で 2 段組を試みたのですが、いかがでしたでしょうか？次号以降では、ハーバリウム紹介などもコンスタントにしていこうかと思っています。その他「こんな特集組んで」「こんな話題はどう？」という要望やネタなど以下までお知らせください。感想や、連絡員へのファンレターもこちらで受け付けています。お待ちしております！

三島美佐子

〒 812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

九州大学総合研究博物館

電話：092-642-4298 FAX：092-642-4299

メールアドレス：mishima@museum.kyushu-u.ac.jp

メールアドレスご確認のお願い

会計幹事 田中法生

緊急を要するお知らせの際には、電子メールを活用させていただこうと考えております。そこで、異動などに伴いましてメールアドレスが変更になりました会員の方は、住所変更とあわせてメールアドレスの変更に関しましても、会計幹事の方にお知らせ下さい。ドメインの変更等で、メールアドレスのみ変更となる場合もあるかと存じますが、その際もお手数ですが会計幹事までおしらせ下さい。現在登録されておりますメールアドレスの中にも、既に一部使用できないアドレスがございますので、お心当たりの方は会計幹事までご一報ください。

絵はがき「日本の絶滅危惧植物」販売中！

庶務幹事 黒沢高秀

日本植物分類学会では1999年に、設立50周年記念事業の一環として、また日本の植物の保全に責任を持ってゆくという決意表明もかねて、絵はがき「日本の絶滅危惧植物」を作成しました。この絵はがきにまだ若干の残部がありますので、改めてご案内を差し上げます。なお、第4回大会会場でも展示販売致します。

収録種の組合せは当学会ならではです。保管状態は良好で、色あせなどありません。会員の皆さんがこの絵はがきを使うことによって、広く一般に日本の絶滅危惧植物に対する知見が広まり、関心が高まる助けとなれば幸いです。

【セット内容】定型判はがき12枚組、
解説シートつき。ケース入り。

【収録種】レブンアツモリソウ、
ユキモチソウ、スルガジョウロ
ウホトトギス、サギソウ、シデ
コブシ、キタダケソウ、オニバ
ス、ハナノキ、ムニンノボタン、
オリヅルスミレ、サクラソウ、
ヒゴタイ。ケースにフクジュ
ソウとアツモリソウ。



【単価購入部数により割引いたします。】1部600円、2～9部500円、10～49部450円、
50～99部420円、100部以上400円（いずれも1部あたりの価格）。

【送料】1～2部200円、3～9部300円、10部以上は無料。

【問い合わせ先】

黒沢 高秀

〒960-1296 福島市金谷川1

福島大学共生システム理工学類

TEL 024-548-8201 FAX 024-548-3181
e-mail kurosawa@educ.fukushima-u.ac.jp

いきもの便り

植物と動物便り・1・うまい話にやご用心

西田佐知子

連絡員としてこの2年、植物と動物の関わりについて書きたいと思います。・・そう思っていたところ、アメリカ植物学会の会報で面白い記事を読んだので、今回はこの記事について書かせてもらいます。

これはモリシヤス島のタンバラコクといわれる木と、ドードー鳥の共生に関する記事です (Herhey, 2004)。この共生ばなしは Temple という人が 1977 年に科学雑誌「サイエンス」に発表して一躍有名になったもので、みなさんも聞かれたことがあるかもしれません。Temple の論文の内容は、モリシヤス島のタンバラコク (アカテツ科の *Calvaria major*、現在は *Sideroxylon grandiflorum* とされている) が樹齢 300 年以上の木を残して絶滅しかかっている。その理由は、この種子を散布していたドードー鳥が 1681 年に絶滅したためだ。この種子はまわりを堅い核に包まれていて、ドードーの消化器官をくぐりぬけて核に穴をあけてもらわなければ芽を出すことができない。それを証明する実験として、ドードーの代わりに七面鳥にこの実を食べさせたところ、17 の種子のうち 10 が鳥の体を無事通り過ぎ、そのうち 3 つが芽をだしたというものでした。

私はこの話を前から知っていました、ある先生に頼まれて、タンバラコクの写真を探したことがあったからです。なかなか写真は見つからず、やはり絶滅間近で写真もないのか、と嘆いたものでした。

ところがところが。つてを辿って見つけた研究者から写真を送ってもらったとき、「あの話はちょっと怪しいらしいよ」との忠告を受けたのでした。

どうも Temple の論文に反して、実際はタンバラコクの若木が見つかっているらし

いのです。それに、Temple の論文の実験にはおかしなところがあるのです。七面鳥に実を食べさせて芽が出たのはいいとして、果実に何も行わなかったり単に穴をあけて芽が出ないか調べること一つまり、対照実験を行っていないのです。

そんなわけで、この論文には 1979 年ごろからすでに批判が出始めていました。それなのに、この美しく哀しい共生ばなしは繰り返し語られているらしく、今回の会報の記事もそれを嘆く内容でした。ドードーが散布していた可能性はあるものの、全て鵜呑みにしてはだめだということです。

なぜ、実験についてだけ見ても致命的欠陥のある論文が、サイエンスという名だたる学術雑誌に出してしまったのでしょうか。その美しい調べに乗せられて、つい厳密な査読を怠ってしまったのでしょうか。植物と動物の共生には面白い話がある一方、あまりに面白いからと怪しい話に乗せられないよう、気をつけなければと思わされたのでした。

引用文献

- Herhey, D.R. (2004) The widespread misconception that the Tambalacoque or *Calvaria tree* absolutely required the Dodo bird for its seeds to germinate. *Plant Science Bulletin*, 50 (4): 105-108.
- Temple, S.A. (1977) Plant-animal mutualism: Coevolution with dodo leads to near extinction of plant. *Science*, 197: 885-886.



チイ便り・3 ～レプラゴケとダニ～

国立環境研究所 大村嘉人

空気のきれいな郊外に比べて、都市部では「これが地衣類です」と言われなければ、その正体に気が付かないほど地衣類は地味である。大気汚染が進んでいる地域であれば、さらにその姿は貧弱なものとなる。そんな地域でも出現する代表的な地衣類といえば、コフキジリナリアやダイダイゴケ、ムカデゴケ、そしてレプラゴケなどであろう。不完全地衣類であるレプラゴケは、“不完全”といわれる通り、はっきりした地衣体を作らずに粉っぽくてカビのようであり、生育場所は半日陰にあるスギの幹表面などである（写真A）。そのような形態や陰気な生育場所のためか、これまで私は特にレプラゴケのファンというわけでもなかった。

ある日、研究所内のレプラゴケ (*Lepraria lobificans* Nyl.) を採集して観察していたところ、レプラゴケの粉芽（粉状の栄養生殖器官）が動いているように見えた。「おや？」と思い、良く見てみると、ダニが地衣体の上をモソモソと動き回っていたのである。その数は直径1cmほどのレプラゴケのコロニー上に20〜30匹ほど。脱皮したばかりの個体は朱色でよく目立っているのだが、多くの個体は甲殻がレプラゴケの菌糸で白く覆われており、ダニの大きさや体毛の生え具合などのために、まるでダニがレプラゴケの粉芽に擬態しているかのようにも見える（写真B）。昆虫などの節足動物が地衣類に擬態することは、オオシモフリエダシャクやサルオガセギスなどの例でよく知られているが、ダニが粉芽に擬態しているのかどうかは、捕食-被捕食の関係を考えたときにちょっと考えにくいかもしれない。

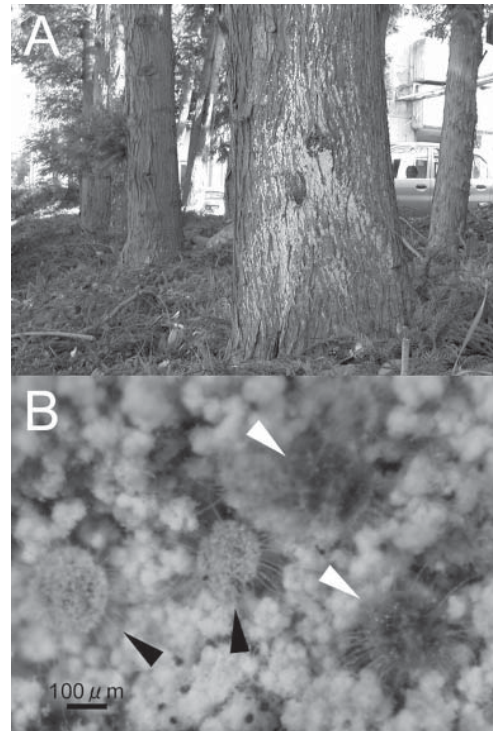
地衣類とダニの関係についてはいくつか面白い研究が報告されている。どうやらそれらのダニは地衣類をエサとしてその一生を地衣体上で送るとのことらしい。ダニの糞にはちゃんと地衣菌と共生藻の細胞が

検出されたとか (Meier et al. 2002)。甲殻に粉芽を付けて移動することもあるので、レプラゴケの散布にも役に立っているようだ。その散布能力は0.1〜7.1cmとのことである (Stubbs 1995)。

進化の歴史の中で、いち早く陸上へ上がったと言われている地衣類。そしてそれらを巧みに利用しながら進化してきた生物たち。見た目は地味なレプラゴケにもそんな物語が見えてきそうな気がしませんか？

引用文献

- Meier, F. A., Scherrer, S. & Honegger, R 2002. Faecal pellets of lichenivorous mites contain viable cells of the lichen-forming ascomycete *Xanthoria parietina* and its green algal photobiont, *Trebouxia arboricola*. *Biol. J. Linn. Soc.* 76: 259-268.
Stubbs, CS 1995: Dispersal of soredia by the oribatid mite, *Humerobates arborea*. *Mycologia* 87: 454-458.



A. レプラゴケの生育場所（撮影場所：つくば市、国立環境研究所内）。B. レプラゴケ上のダニ。黒矢印：甲殻に粉芽がついている個体。白矢印：脱皮後間もないため甲殻に粉芽が付いていない個体。【阿部渉氏（千葉大学）によるとハダニ上科（前気門亜目）に属するダニとのことである。この場を借りて御鑑定に謝意を表します】。

入会案内

日本植物分類学会へ入会を希望される方は、会計幹事までご連絡ください。折り返し「入会申込書」と会費納入用の郵便振替用紙をお送りします。以下の入会申込み書に必要事項を記入し、郵送もしくはFaxにて送っていただいても構いません。その他詳しい内容やe-mailによる入会受付については、ホームページをご参照下さい。

日本植物分類学会入会申込書

年 月 日

_____年度より日本植物分類学会に入会します。

ふりがな
氏名

英語表記

勤務先

名称

所在地 〒

電話

ファクス

電子メールアドレス

自宅

住所 〒

電話

ファクス

電子メールアドレス

生年月日 年 月 日生

性別： 男 ・ 女

称号： Dr. Prof.

雑誌の送付先（どちらかに○をつけてください） 自宅 ・ 勤務先

キーワード（興味の対象を7語程度で）

キーワード欧文

専門分類群

会員の種類（○をつけてください）

一般会員・学生会員・団体会員・賛助会員

以上、可能な限りご記入ください。

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読
申込などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館筑波実験植物園

日本植物分類学会 田中法生（会計幹事）

Phone: 029-853-8433

Fax: 029-853-8998

E-mail: ntanaka@kahaku.go.jp

会費： 一般会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、

団体会員 8,000 円

郵便振替 00120-9-41247

平成 17 (2005) 年 2 月 21 日印刷

平成 17 (2005) 年 2 月 23 日発行

編集兼 福岡市東区箱崎 6-10-1

発行人 九州大学総合研究博物館

三島美佐子

発行所 福島市金谷川 1

福島大学共生システム理工学類内

日本植物分類学会